



# International Virtual Exchange Project

## 英語教育DXの現場：IVEProjectによる オンライン国際交流

ハグリーエリック

法政大学 情報メディア教育研究センター

# IVEProjectで多文化理解や英語能力向上

- パーチャルエクスチェンジとは？
- ザ *IVEProject*
- プロジェクト内、見てみよう
- 結果は？
- 参加するには



# バーチャルエクスチェンジ: 教員の指導のもとで、 オンライン国際交流 その背景

- クルチャーラ 1997 (Furstenberg, et. al., 2001) MIT and SUPAERO
- 世界銀行の “World Links for Development” 1997. Bhatnagar et. al. (2003) 国際的なコミュニケーション能力発展
- TeaCamp (2010) - Teresevičienė et. al. 2011
- その他：最近非常に多い。エラスムスプラス、ソリヤプロジェクト、COILなど

# なぜバーチャルエクスチェンジをやる？

- 文化的理解（自国と他国）、異文化感受性（異文化コンピテンシーの育成に必要）、交流への自信、さらに言語と文化の学習をより魅力的で本格的なものにする。
- 言語能力の向上 - より多くのインプットとアウトプットが可能
- 海外へ行けない学習者（大多数！）にとって、英語の勉強がはるかに魅力的で現実的なものになります。その結果、より興味深く、やる気を起こさせることができるのです。  
(Hagley & Cotter, 2019)
- カルチャーショックなしで、異文化に慣れる (Hagley, 2016)
- 雇用適性: 経団連では？

# Our project



# 2015年から今まで約3万人の学生や6百人の教員が参加

日本	スペイン	ミャンマー
コロンビア	台湾	インド
中国	タイ	ジブチ
エクアドル	フィリピン	マリ
インドネシア	UAE	シリア
サウジアラビア	ベトナム	トルコ
ブラジル	チリ	メキシコ
コスタリカ	マレーシア	2つの言語で
韓国	ニジェール	オーストラリア、アメリカ

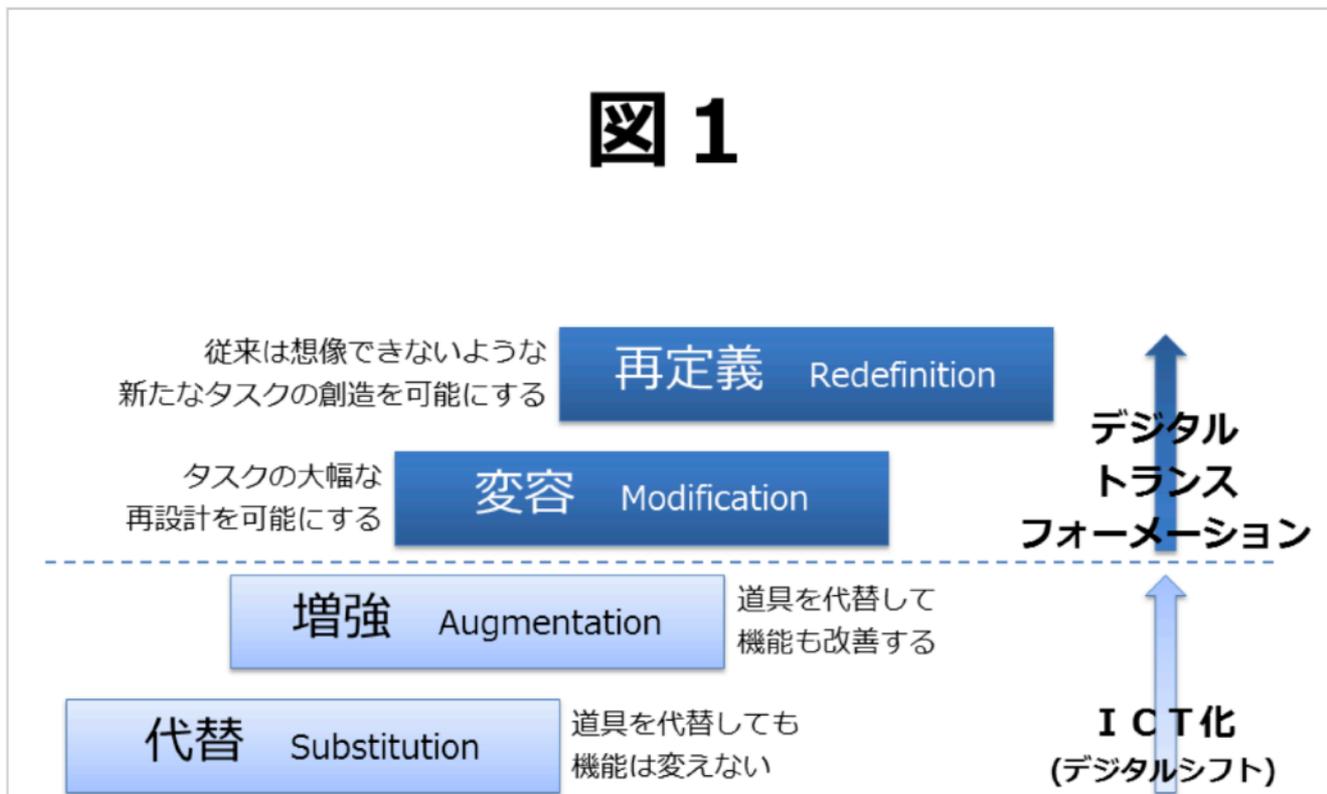
# 何を使っている？



- 非同期のテキスト、ビデオ、オーディオ（同期も推進）
- 教員は不可欠である - 個々の学生ではなく、クラスのみです。
- 無料
- 一回、8週間

下図は、Ruben R. Puentedura考案のモデルを参考に（出典：SAMR: Getting to transformation,2013）筆者が作成したのですが、いまあるものを「代替」「増強」する「デジタル化」に対して、「DX」は、いまあるものを「変容」し「再定義」することだということです。

## 図 1





スライドで本プロジェクトの中身分  
かれない。実際見てみよう。

[サイトへ](#)



# 数字で見よう

数字は興味深いものですが、質的データが示すような絵は描けません。今回の反復では、Chen & Starosta (2000) と Grigg & Manderson (2016) の調査を用いて、学生の異文化感受性と自民族中心主義に変化があるかどうかを発見しました。そのことで下記のこと言える：

交流に関わり：より自身がついたことが見られる。

自民族中心主義: 統計的に有意な変化が見られ、民族中心主義的な考え方が薄らいでいることが示された。

文化の違いの尊重：当初は非常に高いレベルであったため、変化は少なかったが、より尊重するようになった。

交流の自信：日本人学生では、統計的に有意な改善。

交流の楽しさ：統計的に有意ではないものが、全体的に向上が見られる。

インタラクションの注意深さ：すでに非常に注意深く、若干の向上が見られるが、統計的に有意ではない。



# 学生にとってIVEProjectは何もの？

## 1- “友達”

- 私が退屈せずに人生を送るための親友の一人です。
- 自分の気持ちや考えを共有できる友達のようなものでした。
- IVEで何かを書いたとき、文字通り自分の部屋に話し相手がいるような気がします。

## 2- “部屋”

- 落ち着くところ、安心して交流できる



### 3- “ドア”

- IVEは、家にいながら世界へ通じる開かれたドアのようなものです。

### - 4- “橋”

- IVEは、世界中の人と会うための架け橋です。



## 5- “ソーシャルメディア”

- IVEプロジェクトは、私にとってソーシャルメディアのようなものです。私は、このプロジェクトに参加し、すべての回答を読み、質問し、質問に答え、何か面白いことがあれば、すぐにそれについて調べ、とても有益に時間を使っています。
- 6- “安全な場所”
- IVEはCOVID-19のパンデミックもなく、安心していろいろな国を旅することができます。

# 結果

バーチャルエクスチェンジのメリット

- 言語習得の成果
- 学習者の参加 - インプットとアウトプットの増加
- モチベーションの成果 - 英語が必要不可欠であること
- 文化的知識 - 他文化と自文化。  
その上、異文化に慣れる
- 自己啓発 - 学習者の振り返り



参加することは簡単で無料

ハグリーへ email

[iveprojectorg@gmail.com](mailto:iveprojectorg@gmail.com)

Q&A



## 參考書

Bhatnagar, D.; Dewan, A.; Torres, M.; Kanungo, P. (2003). World Links for Development Program (WorLD) (English). Empowerment case studies. Washington, DC: World Bank. <http://documents.worldbank.org/curated/en/356311468150888217/World-Links-for-Development-Program-WorLD>

Chan, G., Miller, P. W., & Tcha, M. (2005). Happiness in university education. *International Review of Economics Education*, 4(1), 20-45.

Furstenberg, G., Levet, S., English, K. & Maillet, K. (2001). Giving a virtual voice to the silent language of culture: The Culture Project. *Language Learning & Technology*, 5(1), 55-102.

Hagley, E. (2016). Making virtual exchange/telecollaboration mainstream – large scale exchanges. In S. Jager, M. Kurek & B. O'Rourke (Eds), *New directions in telecollaborative research and practice: selected papers from the second conference on telecollaboration in higher education*, 225-230. Research-publishing.net. <https://doi.org/10.14705/rpnet.2016.telecollab2016.5>

Hagley, E. & Cotter, M. (2019) Virtual exchange supporting language and intercultural development: students' perceptions. In F. Meunier, J. Van de Vyver, L. Bradley & S. Thouësny (Eds), *CALL and complexity – short papers from EUROCALL 2019* (pp. 163-168). Research-publishing.net. <http://dx.doi.org/10.14705/rpnet.2019.38.1003>

Hammer, M. R., Bennett, M. J., & Wiseman, R. L. (2003). Measuring intercultural sensitivity: The intercultural development inventory. *International Journal of Intercultural Relations*, 27(4), 421–443. [http://www.sol.lu.se/media/utbildning/dokument/kurser/ENBC11/20112/Hammer\\_article\\_Task\\_1.pdf](http://www.sol.lu.se/media/utbildning/dokument/kurser/ENBC11/20112/Hammer_article_Task_1.pdf)

Teresevičienė, M., Volungevičienė, A., Daukšienė, E. (2011). Virtual mobility for teachers and students in higher education. Comparative research study on virtual mobility. Vytautas Magnus University: Kaunas. [http://www.teacamp.eu/sites/default/files/Teacamp\\_book\\_final\\_final20110606.pdf](http://www.teacamp.eu/sites/default/files/Teacamp_book_final_final20110606.pdf)